



港区新橋5-15-5
交通ビル3F

国労東日本本部

発行責任者 伊藤秀樹
編集責任者 伊藤隆夫

2006年6月16日

第642号

定価 20円

組合員の購読料は
組合費に含まれています

もう一人の仲間を国労に
**国労加入を
大胆に訴えよう**

アドレス <http://www.e-nru.com>

3会場のべ204名の参加で 中間総括から大会までの意思統一を！ 国労東日本ブロック別分会長会議開催

国労東日本本部は5月14日に開催した関東4地本（水戸・高崎・新潟・長野地本）を皮切りに、20日の東北3地本（盛岡・仙台・秋田地本）24日には千葉地本でブロック別分会長会議を開催し、2月に開催した委員会以降の情勢の一致から、大会までの運動の集中点について意思統一をした。以下、議員団総会と併せて報告とする。
<なお、日程の都合上東京地本については7月15日に開催予定>

関東四地本分会長会議

関東4地本（水戸・高崎・新潟・長野）の分会長会議は5月14日（土）13時から東京新橋・交通ビルにて60名の参加で開催。主催者を代表して挨拶した伊藤委員長は、「安全」と「組織拡大・健全な労使関係」の2点について強調し、参加者に討論と



60名の参加で討論と交流

交流を要請した。続いて、JR不採用事件に絞って提起した本部吉田書記長は、「2003年12月22日最高裁判決が出され2年半が経つ、当時は3対2とかあったが敗訴が確定したのは事実。皆さんの奮闘で

ここまで来た。なんとか解決の道筋が出来るかどうかギリギリのところに来ている。今後、通常国会の会期末、全国大会、9月の内閣改造、そして12月には最高裁判決から3年で時効が成立する。節々・節目をしっかり踏まえ解決に向かって行きたい」とした上で「全国キャラバン連鎖集会、とりわけ6月12～16日の中央行動の成功にむけて。『分割・民営』から20年、未解決問題である採用差別について国民に訴え政府に解決を迫る新聞意見広告について。12月時効という状況の中で、新たな訴訟については検討を重ねてきたが、裁判を起こして政治決着

をする。解決のための裁判という位置付けで全国大会で最終確認をしたい」とし「闘って良かったと言い合えるように、本部としては政治対策に全力で取り組む」と、決意を示した。

その後、高野書記長より当面する取組みについての提起、引き続き質疑意見交換に入った。

▶ 会場発言

組織対策のチラシとティッシュをどのように活用しているのか？ シニア再雇用問題について不安が多い。行った先の労働条件含めて交渉強化を！ 新採配属になった職場にはチラシ配布している。若い人は右も左もわからない。長いスパンで取り組む。昨年試験合格した。差別させないためにも今年も国労で受かるんだと意思統一！ 保守用車が貨物を停めてしまうとか、メンテ再構築以前には考えられなかった事が起きている。見直し交渉をしっかりと欲しい。労働法制の問題など厚生労働省が進めている動きを見据えて運動の構築を！ 若い仲間が国労加入している。組織拡大の話をついに地方に広げて欲しい。駅の合理化で通勤駅が無人になり線路に物を落としても取れないなど矛盾が拡大。安全輸送体制をどう積み上げるのか？ 職場には診断書を持っている人が結構いる。メンタルヘルスについて会社はどのように考えているのか？国労としても重視した取組みを！



会場からの発言

▶ 執行部答弁

チラシ・ティッシュの関係は組織対策のメニューの一つとして活用を！ 55歳以上の在職条件の改善については制度改善の中でも求めてきたが、65歳の定年制確立問題とあわ

委員長
挨拶

組織拡大は殻を破って積極的に

執行委員長 伊藤秀樹

東日本の重要課題は安全問題。昨年12月25日の羽越本線脱線転覆事故、1月に現地で献花をさせて頂いたが、鳥肌が立つ思いであった。鉄道で働く者として本当に安全を追求しなければいけないし、譲れない問題をどう職場から作っていくのが問題。首都圏では電車が止まる。新幹線では2月から4月まで月1回ずつ分離をしまっている。実際に起こっている現実。会社は『本社・現場が一体となって総点検していきたい』『首の皮が一枚つながっている』という表現をしている。私たちは、事故が私たちの業務と表裏一体であり、仕事総点検運動と本部が提起している安全総点検を、それぞれの立場の中で奮闘をお願いしたい。職場と私たちで連携をとって改善を進め、安全で安定した輸送、安心出来る車両・線路を提供するのか検討をお願いしたい。

もう一つの中心課題は、組織拡大と健全な労使関係の問題。

一昨年9月の配属事件以降、昇進の和解、そして出向・配転40事件という形で4月27日には第6回目の調査を進めてきた。基本的に過去の清算と差別の是正、そして健全な労使関係と将来展望を築くのかという事で提起してきた。1つは、40事件の動向と合わせて会社・中労委を通してバッチ事件の和解についても検討したいと中労委から言われた。本部・本社間で労使関係の改善を進めながらも地方・支部・分会・職場によっては、昔と変わらない現場の姿勢についてはご指摘いただいている。バッチ事件とあわせながらご意見を頂き、どうやって明るい職場を作っていくのか議論いただきながら、中労委の場を通して差別感の解消に向け努力していきたい。

それと合わせて、職場の分会運動を活性化することによって国労の組織拡大の条件は必ずある。昨年の定期大会から11名拡大をいただいた、勇気を持って国労加入を進めていただきたい。この間加入した仲間は1人として脱退していない。以前であれば国労に加入すれば引き戻されていた経過を覚えているし涙を流した。加入呼びかけへの不安もわかるが、殻を破って積極的に加入を勧めることが不安解消の第一歩であり確信を！

せ求めて行きたい。再雇用制度は4月からの雇用安定法との関係含めて問題が発生すれば取り組む。新しい労働契約法は大きな議論になっている。本部、そして連合・全労連含めての動きと共に運動を強めたい。安全輸送については、今後の駅のあり方含めて引き続き勉強していきたい。メンタルヘルスについては昨年交渉を1回やったが、大きな問題であり今後とも強めて行きたい。

まとめをした高野書記長は「安全問題 シニア問題 出向協定問題 組織拡大」について行い、「さまざまな課題があるが、本社・本部間、地方・支社間の中で解決を図る問題、また、分会の取組みでお願いする問題、当面8月に予定している大会に向けて各機関が全力をあげて取組みを進めていただくことをお願いする」と締めくくった。最後に伊藤委員長の団結がんばるーで、関東ブロックの意思統一とし、東北ブロック別分会長会議につなげた。

東北3地本分会長会議

東京から会場を、岩手県に移しての東北ブロック3地本分会長会議は5月20日(土)盛岡市・教育センターで94名の参加で開催。司会を務めた藤野副委員長は、「今年の成果をきちっと闘いにうけとめ組織を含めた情勢の認識を一致させよう」と、参加者へ開催の趣旨と意見を要請した。

主催者を代表して伊藤委員長が挨拶(別掲) 続いて高野書記長が「JR不採用問題」含めた東日本としての当面する運動について提起し交流に入った。

▶ 会場発言

不採用事件の新聞意見広告について資料が無く説明するのに大変。エリア異動、今までの地域間異動は強制だったが新たなものは本人の意思が尊重されるのか?例えば、試験の面接などの中で意思確認とかされるのではないかと心配。試験合格者が増える中で新たな脱退工作もされている。拡大と同時に強化にも力を! リモートマルス拠点センターが盛岡に設置。一方で、もしも券売機を導入された駅の実態は? 風規制の問題で、速めの規制により電車が止まる。風の通り道は決まっている。風速計の増とか検証が進んでいない。運転部門では遅れの回復は次の区間で!が払拭されていない。安全の欠如に対して職場で議論が必要。関連会社で感電死が発生。会社は予定にない仕事をした本人の責任に!そんな中、検電器が故障し会社の調査では異常なく誰も知らない中で戻っていた。仲間は、100回検査して1回でも駄目なら使えない!と怒っている。感電死の関係でも会社は基本ルールを守るしか言わないが、メンテ再構築のときの団交確認を守らせる闘いの総

点検運動を!

▶ 執行部答弁

意見広告の関係は本部に要請する。分会運動の活性化が拡大につながっている。あわせた取組みとして今後とも展開していく。エリア異動について会社は「強制・強要はしないが懲罰はする」と言っている。意思確認については、「自己申告の面談で確認する」と言っている。個人の



岩手県盛岡市教育センターで開催

意思を会社に伝えて欲しい。光ファイバーを含めた対応ということで盛岡に拠点設置となった。導入後の問題については運協で交流会も計画しているので問題点など相談し進める。昇進和解以降の主任問題については合格者の会議を検討している。風規制の問題は今のあり方でいいのかどうか検討。羽越の事故以降、会社には統一した規範と省令の安全綱領の中の運転規定を明確にすることを求めている。メンテ交渉の確認について各協議会からも意見をもらっている。事実を点検しながら見直し交渉を強化する。

9分会の発言を踏まえた高野書記長のまとめでは「安全問題 組織強化・拡大」について集約し、「JR不採用事件の早期解決の闘い、私たちの日常職場の問題など課題は山積しているが、8月に東京開催で準備している東日本大会まで各機関連携をし当面する取組みに集中したい」とまとめた。最後に伊藤委員長の団結がんばるーで東北ブロック3地本分会長会議の意思統一とした。(千葉地本分会長会議の報告は次号に掲載します)

国労議員団関東ブロック2006年総会報告

国労議員団関東ブロック(水戸、千葉、東京、高崎、新潟、長野の各地本議員)の2006年総会は、5月14日から15日まで茨城県水戸市で開催されました。

当日は、議員が15名、各地本の代表4名そして、東日本本部より委員長、書記長の出席で、合計21名が集まりました。

本年4月に新人で見事に当選した、千葉県長生村議の山口裕之さんも参加されました。

議員団事務局長の河野達男新宿区議の司会で、議員団長の小林正蔵市議の挨拶、東日本本部伊藤委員長の挨拶、そして開催地本の高松水戸地本委員長の挨拶を受けました。

参加者の自己紹介の後、東日本本部高野書記長より、JR不採用事件の早期解決を求める取り組み、JRの安全問題・効率化施策に対する国労の取り組み、中労委和解協議について、国労の組織強化・拡大の取り組みについてそれぞれ報告を受け、議員各自からの質問・意見の交換を行いました。

その後、参加各議員から自分の自治体での課題や問題、議会活動の報告を出し合いました。とりわけ、昨年の議員団総会の日が発生した、来年度、統一自治体選挙での勝利を誓い合った06年総会



JR西日本の福知山線の大事故や5時間にわたってストップした山手線の事故など、安全問題に多くの発言がありました。

また、JRのバリアフリーについて、進んではいるがまだまだ不十分であり、すべての人が安全で安心して利用できる鉄道を目指す取り組みを強める報告もありました。

地方議会でのJR不採用の早期解決を求める「意見書」の取り組み、市町村合併の抱える問題などの発言があり、最後に意見書採択に向けさらに頑張ることを確認しました。

2日目はマイクロバスで水戸市内とひたちなか市そして、那珂湊港での新鮮な魚の昼食に舌鼓を打ちました。

来年度の統一自治体選挙に全員の当選を勝ち取ることを誓い合い、秋に千葉地本の担当での開催を確認し解散しました。

国労議員団事務局長 新宿区議 河野 達男

がん予防・検診から治療まで、ご契約のサポート!

ご契約は満80歳まで

健康支援金をプラス! 通院も入院も同額保障に!

がんの保障 病気・ケガの保障

新健康応援団 MAX (メディカルチェック)

■募集代理店

アベニール 株式会社 〒105-0004 港区新橋5-15-5 交通ビル3F
TEL 03-3437-6810 FAX 03-3437-6822

〈引受保険会社〉

Affac (アメリカンファミリー生命保険会社)
東京第三営業本部 第三支社
〒163-0456 新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル
Tel.03-3344-1889 Fax.03-3344-4036

資料請求いただいたお客様の個人情報の利用目的は、Affacの各種商品やサービスの案内・提供・維持管理となります。

◎詳しくは、パンフレットや「ご契約のおしり・約款」をご覧ください。

AFN広告-2005-090-0510015 6月2日